

平成29年度第1回 印西市市民活動推進委員会 会議要旨

1. 開催日時 平成29年4月21日（金） 午前10時～11時50分
2. 開催会場 印西市文化ホール 大会議室
3. 出席者 粉川一郎委員長、植本崇委員、大和正明委員、安倉史典委員、玉井和幸委員、北村倫子委員、大野定俊委員、浅賀博委員、桑田佳雄委員、奥野不二子委員、志村はるみ委員（以上11名）
4. 事務局 高橋参事、齊藤主幹、伊藤、杉山
5. 傍聴者 3名（定員5名）
6. 会議内容
 - 1 開会
 - 2 職員紹介
 - 3 議題
 - （1）企画提案型協働事業（平成28年度実施分）の評価について
 - （2）平成29年度企画提案型協働事業実施要領（素案）について
 - （3）その他
 - 4 その他
 - 5 閉会

7. 会議要旨

2 職員紹介

今年度から新たに市民活動推進課に配属された職員を紹介。

※高橋参事退席。

3 議題

（1）企画提案型協働事業（平成28年度実施分）の評価について

〔参考資料〕資料1-1、1-2、1-3）

○道作古墳群歴史広場の維持管理事業

《事務局報告》

最初に、昨年度に委員会で議論した意見を踏まえ、粉川委員長の了承を得て、事後評価シートの記入様式を変更したことについて報告した。具体的には、記入事項を「プロセス評価」と「成果評価」に分け、事業の成果や課題、今後の展望に関して、なるべく詳しく記述してもらうよう修正を図った。

続いて、資料1-1に基づき、実施団体と担当課の生涯学習課に対し、事業完了に合わせて依頼した自己評価の結果を報告した。双方とも概ね適切に実施されたと評価しており、順調に事業が行われたと考えられる。また、双方とも事業の継続を希望していることから、今後の事業展開について積極的に検討していく必要があることを伝えた。

《委員意見》

- ・資料1-1の6ページ「市民活動推進課まとめ」に、新たな事業展開を積極的に検討していく必要があると記載されているが、誰がどのように検討していくのか。
→検討を進める主体は担当課であるが、実施団体と協議して進めることが望ましいと考える。
(事務局)
- ・新たに開館した木下交流の杜歴史資料センターを活用し、道作古墳群の周知を図るとよいのではないか。
→委員会からの参考意見として担当課に伝えていただきたい。(粉川委員長)
- ・今後の事業展開については、昨年度も市民活動推進課から同じような見解が出されていた。担当課としては、もう少し具体的に方向性を示していく必要があるのではないかと。
→事後評価シート5頁「Q20」や「今後の展望」において、団体と担当課が今後の見通しを述べている。今後の進展を見守りたい。(事務局)
- ・道作古墳群を市としてどのように整備活用していきたいのか、コンセプトが見えない。現在の状況では、協働の成果は乏しいと個人的には考えている。
→協働のもう一方の主体である市にも、事業の意義をさらに掘り下げていく姿勢が求められる。
(粉川委員長)
- ・事後評価シートに、担当課の道作古墳群活用に関する記載がない。市として古墳群の資料的価値を高めていく方向性を示してほしい。
- ・自由提案型による事業実施は3年と制度設計されている。活動とコストの両面から、今後の展開に対する現実的な方法論を探っていく必要があると感じる。
→求められるのは道作古墳群の活用に関する総合的なビジョンであり、それには問題意識を具体化する生涯学習課のアクションが欠かせない。企画提案型協働事業はひとつのきっかけなので、団体の協力があるうちに積極的に検討を進めていただきたい。(粉川委員長)
- ・近隣に広大な竜角寺古墳群を有する房総のむらがある。連携して事業展開することも一案である。
→地域の置かれた条件や特性に合わせて事業展開することが望ましい。(粉川委員長)

○竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業

《事務局報告》

資料1-2に基づき、実施団体と担当課の都市整備課に対し、事業完了に合わせて実施した自己評価の結果を報告した。双方とも概ね適切に実施されたと評価しており、順調に事業が行われたと考えられる。また、双方とも事業の継続を希望していることから、今後の事業展開について積極的に検討していく必要があることを伝えた。

《委員意見》

- ・事後評価シートの記載からは担当課としての主体性が感じられなかった。団体はアンケート等を実施したのか。
→作業中に利用者と直接ふれあう中で感想などを聞いていると伺っている。イベントの開催時にアンケートを実施したかどうかは把握していない。(事務局)
- ・評価の方法が事業実施計画書に記載されている以上、必ず実施する必要があるし、その結果は事後評価シートにも残すべきである。

- モニタリング結果については担当課も事後評価シートになにかしら記載すべきである。それが欠けていることが、市の主体性が疑われる要因になってしまっている。(粉川委員長)
- ・NPO側の立場からすれば、行政側の評価の書き方はこの程度が妥当であると思う。ただし、今後の展望については、担当課からもう少し踏み込んだ記述があってもよい。
- ・なるべく具体的に記載するよう指示があるにもかかわらず、実際には具体性に欠ける印象を受ける。事後評価シートに記載する文字数などの指定はあるのか。
 - 特に指定はない。(事務局)
- ・市は事業経費をどのように確認しているのか。
 - 委託契約として、市の契約規則に基づき報告の提出、検査の実施等を厳密に行っている。(事務局)
 - 事業の区切りとなる3年目が近付いている。担当課と団体で、今後の事業展開について本腰を入れて検討していただきたい。(粉川委員長)

○印西市木下地区歴史講座

《事務局報告》

資料1-3に基づき、実施団体と担当課の生涯学習課に対し、事業完了に合わせて実施した自己評価の結果を報告した。双方とも概ね適切に実施されたと評価しており、順調に事業が行われたと考えられる。

市民のふるさと意識醸成という所期の目的からは、歴史講座の実施だけが目的達成の手段ではないと思われることから、今後の事業展開については、より多角的な検討が期待される。

《委員意見》

- ・講座事業で新旧住民の融和やまちづくりの担い手を育成できるのか、疑問に感じる。また、歴史講座を通じてまちおこしに若年層を取り込むのは無理があるのではないか。むしろ、ターゲットとなるシニア層向けの内容を充実させ、生涯学習の機会の場合とした方が活動の充実につながると思う。
 - 市民活動推進委員会からのアドバイスが、若年層をターゲットとする事業を団体が検討するひとつのきっかけであった。(事務局)
 - 団体は実施の手ごたえがあったかを検証し、あれば継続、なければ一から見直していくという姿勢で臨んでいただければと思う。(粉川委員長)
- ・協働事業としての公益性を踏まえると、市民アカデミーなどを含め、もう少し幅広い世代や地域の市民に向けて事業を展開していただくことが必要だと思う。また、冬期講座は報告内容だけを読むと、単なる観光のバスツアーのようにも見えてしまう。もう少し報告の記述を工夫していただきたい。
- ・もう少し特別講座の報告は具体的にされているのか。
 - 講座には市の職員も複数参加しており、現場をよく見ている。そのため、そこまで詳細な報告を必要としなかった面もあると思われる。(事務局)
- ・団体と担当課の双方から広報の仕方が課題として挙がっているため、今年度提案をされるのであれば、改善案を示していただけるとよいと思う。
- ・今年度の親子向け夏期講座には参加者が少なかったとのことだが、昨年度の親子向け講座には多くの参加者が集まっていた。本当に広報が問題だったのか。

- 担当者からヒアリングしたところ、実施日の8月7日は時期的に難しかったかもしれない、7月であればもう少し違ったかもしれないとの話があった。(事務局)
- 担当課とともに、反省点を今後の事業計画に生かしていただきたい。(粉川委員長)

○事業評価の全体を通して

- ・事後評価シートの様式は以前のものより改善されたと思う。ただ、依然として「十分できた」、「できた」等の判断基準が曖昧で、目標の測定値としては不明確なように思われる。また、竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業については、議事録を残していない点が気になる。
- ・あくまで自己評価であることを考慮すると、あまり評価のスケールを細かくする意味はなく、この程度で十分だと思う。問題となるケースは、一方が「できた」、もう一方が「できなかった」と、双方の評価に大きな隔たりが生じた場合だけであろう。
- ・すべてのコメント欄に必ず記載してほしい。

《委員会まとめ》

事後評価シートの様式についてはある程度の改善が図られたと言える。委員会の共通認識としては、書き手側により具体的で事後検証可能な評価をしていただくことが今後の課題と理解される。(粉川委員長)

(2) 平成28年度企画提案型協働事業実施要領(素案)について

[参考資料] 資料2

《事務局説明》

- ・資料2に基づき説明した。今年度は、昨年度に大幅なりニューアルを行ったことから、昨年度から特段の制度変更は行わなかった。本日承認を得られれば、5月には庁内で「指定テーマ型」の募集を開始し、6月1日から市民に向け募集を開始する。

《委員意見》

- ・「アイデアのたまご」の効果的な活用を期待する。
 - 周知効果が高まるよう、市ホームページの掲載方法を検討していただきたい。(粉川委員長)
- ・継続事業については、前年度の委員会意見に対する担当課としての改善策などを「協働の機会提案書」に記載するよう努めていただきたい。
 - 担当課にその旨を伝える。(事務局)
- ・事業評価で測定可能な数値などの記載を提案書に盛り込むことは可能か。
 - 事務局で案を作成し、委員長の確認により委員会承認とすることで了承された。
- ・指定テーマで市の課題を提起していくことが市民にとって大変重要だと感じた。
 - 一時期、市民から提案するスタイルが流行ったことから、それがスタンダードと考えられる傾向にあるが、協働事業は税金を投入して行われる以上、行政が積極的に発信していくことが本来のあり方である。庁内調整は大変だと思うが、指定テーマの募集が増えるよう頑張っていたきたい。(粉川委員長)

《検討結果》

- ・素案については承認する。指摘のあった部分については、事務局で追加し、委員長確認とする。

4 その他（事務連絡等）

- ・委員の任期について
- ・委員会の次回日程について

日時：5月17日（水）午前10時から 会場：印西市役所

- ・退任委員よりあいさつ

以上